

2. カンボジアでかかりやすい主な病気について

事故や怪我による治療や緊急搬送に備えて、海外旅行傷害保険への加入は必要不可欠です。

(1) 蚊（カ）が媒介するウイルスまたは原虫によって感染する病気

高熱を出すものとして、主にデング熱とマラリアがあります。どちらも蚊によって媒介される病気です。

デング熱は突然高熱、関節痛、頭痛が起きる症状が3～4日続いた後、4～5日目に発疹や出血斑が出ることがあります。診断は、3～4日目に行う血液検査（白血球減少、血小板減少、免疫検査）で可能ですが、対症療法以外に根本的な治療法はありません。血小板が急激に減少するデング出血熱になると輸血が必要になり、遅れると死亡することがあります（2009年度、カンボジアでは0.3%）。

マラリアは、同じように熱が続きますが、2～3日目には診断が可能で、早く抗マラリア薬を飲むと効果があります。プノンペンではマラリアにかかる心配はありませんが、アンコールワットの奥地（林）、タイ、ベトナムとの国境地帯は注意してください。マラリアを媒介するハマダラカはおもに夜間に活動し、デング熱を媒介するネッタイシマカはおもに日中に活動します。ともにワクチンはないため、予防は蚊に刺されないようにすることです。

(2) 飲んだり食べたりすることによって発生する消化器系の病気

経口感染によって発生する主な病気（下痢、嘔吐、発熱が主な症状）には、細菌による感染性胃腸炎（病原性大腸菌、サルモネラ菌、ブドウ球菌など等が多く、まれにチフスがあります）、ウイルスによる感染性胃腸炎、アメーバ赤痢、ジアルジア症（原虫）など多種多様にわたります。その他にも、各種の寄生虫があります。

町のあちこちでは、ゴミや食べかすが散らばっており、小さいレストランや屋台ではバケツに溜めた水で使い終わった食器を洗っている光景によく出会います。また、ハエやネズミといった衛生害虫も多く、常温で保管された食材を使い、ハエがたかるままに放置された料理がテーブルに出されることも珍しくありません。予防は、飲料水、飲み物、食べ物にいつも注意を払うことです。

また、そのほかにも経口で感染するA型肝炎、E型肝炎、血液感染、性的な接触で感染するB型肝炎、C型肝炎、エイズ等があります。A、B型肝炎は、ある程度予防接種で防ぐことができます。B、C型肝炎、エイズは、日常生活で感染する心配はありません。

そのほか、メコン川上流にはメコン住血吸虫という皮膚から感染する寄生虫がいますので、安易に川や湖には入らないで下さい。

(3) 主な病気の簡単な説明

＜アメーバ赤痢、細菌性赤痢＞

前者は赤痢アメーバという原虫が、後者は赤痢菌という最近が主に水を介して感染して起こります。腹痛、下痢、血便、発熱を主な症状としますが、軽い下痢程度で終わる

場合も珍しくありません。またどちらも長く腸管内に留まることがあります。

＜腸チフス＞

チフス菌が食べ物や水などを介して経口的に感染して起こります。発熱と腹痛の症状を伴うことが多いです。3日以上高熱が続いたときは、必ず医療機関を受診してください。

＜ウイルス肝炎＞

ウイルス肝炎のうちA型、E型は経口的に感染し、B型、C型は血液や体液を介して感染します。カンボジアではE型肝炎はほとんどみられませんが、B型、C型肝炎ウイルスは両方あわせると約10%の人が保有しているといわれます。これらのウイルスによる急性肝炎にかかると、発熱や体のだるさが出現し黄疸がでます。黄疸では最初尿の色が赤っぽくなるので、血尿と間違えることがあります。腹部症状を伴うこともあります。なお、B型肝炎は性行為でも感染します（C型も感染することがあります）。

＜デング熱＞

ネッタイシマカという蚊がウイルスを媒介して感染します。関節の痛みや頭痛を伴う高熱が5日くらい続き、その後発疹がみられます。熱が下がってもしばらく体のだるさがとれないことが多いようです。治療薬はありません。重症のデング出血熱になつたら、入院して適切な治療を受けないと命に関わることがあります。なおネッタイシマカは主に昼間吸血行動をとります。カンボジアでは雨期、特に8月頃が発生のピークとなります。

＜マラリア＞

ハマダラカという蚊がマラリア原虫を媒介して感染します。現在プノンペン市内からトンレサップ川流域、アンコールワットのあるシアムリアップ市内では感染する危険性はほとんどありません。バッタンバン、シハヌークビル、カンボットの市街地でもほとんどみられませんが、タイやベトナムとの国境地帯では頻繁にみられます。ほとんどが熱帯熱マラリアで、特にタイとの国境地帯では薬の効きにくい耐性マラリアが多いことが知られています。ハマダラカは夜間吸血行動をとるので、マラリア流行地では夜間の外出をさけ、蚊帳を利用するなどの蚊に刺されない工夫が必要です。主要都市の滞在・観光目的の旅行者は、予防内服は不要です。また現在カンボジア国内で売られている薬は、有効成分の含まれていない偽薬が多いといわれています。治療を受ける際には薬の入手経路がしっかりした医療機関で治療を受けるか、バンコクで治療を受けるようにして下さい。

＜HIV感染症＞

カンボジアでは急速に広がっており、政府がもっとも対策に力を入れている病気です。精液や血液を介してHIVが感染して起こる病気です。カンボジアでは主に性行為によって広がっています。人口の数%がHIV陽性といわれ、売春婦の陽性率はかなり高い

といわれています。